


Ursula and Fritz Melchers Travel Award を受賞して

氏名	夜久 愛	
所属	京都大学大学院医学研究科 分子生体統御学講座 医化学分野	
発表論文 タイトル	Deciphering the role of Regnase-1 in the pathophysiology of pulmonary arterial hypertension	

この度は Ursula and Fritz Melchers Travel Award に選出していただき大変光栄に存じます。Melchers 博士御夫妻をはじめ、選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、日頃より研究をご指導いただいております竹内理先生をはじめ、研究を支えてくださった研究室の皆様へ感謝申し上げます。

私は、免疫・膠原病内科の大学院に入学後、膠原病における自然免疫の役割について研究を行いたいと考え、自然免疫細胞を含む免疫細胞に高発現し、炎症性サイトカインなどの転写後調節を介して炎症を制御する分子である Regnase-1 を発見された竹内理先生の研究室で実験をさせていただくことになりました。自然免疫細胞における Regnase-1 の機能解析を行っている中で、骨髄系細胞において Regnase-1 を欠損したマウスが、膠原病に合併することが多く、我が国の指定難病の一つである肺動脈性肺高血圧症(PAH)を発症するということを発見しました。一般的に使用されている PAH モデルマウスは、重症のヒト PAH 病理所見を再現できませんが、我々の作製したマウスは、重症のヒト PAH 病理所見を忠実に模しており、PAH の病態解明に適したモデルマウスと考えられます。そのマウスを解析し、骨髄系細胞の中でも特に肺泡マクロファージにおける Regnase-1 が炎症性サイトカインや血管増殖因子などの転写後調節を介して一元的に PAH を制御していることを見出しました。この結果から、炎症性サイトカインや増殖因子を阻害する新たな PAH 治療法の開発、また、Regnase-1 自体が治療標的になる可能性が期待されます。

第 50 回日本免疫学会学術集会において、以上の結果をポスター及び口頭にて発表させていただきました。多くの先生方から貴重なご意見、ご質問を頂き、改めて研究内容と向き合う良い機会となり、他の参加者との交流もできたことで有意義な時間を過ごすことができました。また、今後の研究に繋がる発表などを拝聴することができ、研究へのモチベーションも高まり、非常に良い機会となりました。

最後になりましたが、Melchers 博士御夫妻、指導教官である竹内理先生、共同研究者の中岡良和先生(国立循環器病研究センター研究所)を始め、本研究を支えてくださっている多くの方々にこの場を借りて感謝申し上げます。